

のような単純な事ではないとか、スポーツを政治の場に持ち込み利用しただけ・・・などとする向きもあるでしょうが国民に感動を与え、その場だけかも知れませんが人種の垣根を越え国中がその出来事に歓喜したのです。これはサッカーや野球なども共通に持つスポーツという特性とも思いますが、加えて人と人がぶつかり合い血を流しながら戦うラグビーと言う競技から沸き立った感情であるとも言えるかもしれません。私がラグビー競技にこの年齢になっても身を置いているのは、こんな大袈裟な思いからではありません。自身単純！と苦笑もしますが映画の終盤、周りで私だけ涙を止めどなく流しながら見ている時には南アフリカの代表選手がチームとして利己ではなく国のまとまりを願う気持ちを根本に持ちながら、厳しい練習を積むその苦勞の何百分の 1 かが実感できた感覚があり、改めて自身の持つ精神性が、ラグーマンシップという型枠に深く埋められていることに気付かされた映画でした。ラグビー、仕事、技師会というフィールドで今まで良き後輩、同輩、先輩と交わりを持つことが出来たのも、このラグーマンシップを土台にした精神面から繋がりを得られたと感じます。

これからも仕事、技師会活動に無骨に正面からぶつかり、タックルで倒されても起き上がり、ある時は華麗な？ステップでかわしながら励みたいと思っています。それに「INVICTUS」の精神も加えて。入学シーズンです。

母校では「いい体格しているなあ！もっと女の子にもててみない！」と部への勧誘が今でも盛んに行われているのでしょうか・・・？



世界オールディーズラグビー試合後ウェリントン大会



世界オールディーズラグビー若手選手とサンデイエゴ大会

【土居 修】

◇ 昔も今も

京都には美しい竹林や紅葉のなかひっそりたたずむ寺院や庵が見られる嵯峨野、あるいは「♪・・・京都大原三千院恋に疲れた女が一人・・・♪」で有名な哀しい女人の歴史を思い出させる洛北大原等有名無名のお寺がいっぱいあります。

そして訪れる人々は心の平穏を願い、静かに首を垂れてただひたすら祈っている姿が TV 等で映っています。祈願の内容は良縁、安産、合格祈願、商売繁盛、交通安全、健康祈願、開運、厄除け・方除け、夫婦円満等ですが、昔から変わることなく今日まで続いています。

社会に生きる人間それぞれがいつも必要としている内容なのでしょうが、世の中が複雑になるにつれてこの祈願は絶えることはなく、むしろ増えていくことと思えます。

私事で顧みると、大学受験時は合格祈願、その後は良縁祈願、現在では健康祈願へ移っていますが、神社仏閣にまいり祈願をすることは今も変わっておりません。

そこで、ここでは時と共に変わっていく世の中であって昔より変わらず続いている京都の夏の伝統行事祇園まつりと大文字送り火について紹介させていただきます。

まずは祇園まつりです。全国で夏祭りとして有名なものがありますが、京都での夏のまつりはやはり祇園まつりです。京都の三大祭りとして有名な春の葵まつり、夏の祇園まつり、秋の時代まつりの一つであり、また、大阪の天神祭、東京神田まつりと並び日本三大まつりに挙げられているものです。事の起こりは平安時代に疫病が流行したことを受け、今後流行しないようにと願って始まったまつりと言われていています。この祇園まつりの一番のハイライトはなんとと言っても 7 月 17 日に行われる山鉾巡行です。32 基の山鉾が四条烏丸から長刀鉾を先頭にその年のくじで決まった順に従ってゆっくりゆっくりと山鉾が大勢の人たちによって牽かれていきます。途中、お稚児さんによるしめ縄切り、くじ通り巡行しているかどうかをみる「くじ改め」、四条河原町の角では青だけに水を垂らして表面を滑りやすくし、重い山鉾を一気に 90 度回転する「辻まわし」などどこで見ても楽しいものです。京都で生まれ育った人たち、特に山鉾町で生まれ育った人たちにとっては夏が来ると祇園祭の「コンコンチキチンコンチキチン」のお囃子に気持ちが高まります。また、調度この祇園まつりを境に京都では梅雨が明け本格的な夏がやってきます。近年は異常気象のせいなのか必ずしもそのようにはならなくなりましたが・・・。

一方、巡行の前の夜は宵山で四条通が

歩行者天国となり毎年の事ながら大変な混雑ぶりです。宵山ではどこの山鉾も提灯に火がはいり祇園囃子が賑やかに聞こえます。また、各町内の家では部屋に飾られた屏風を見ることができ、これも楽しみの一つです。

続いて大文字送り火です。これも NHK 全国ニュースでしばしば放映されますのでご存じの方もおられるかと思えます。8 月 16 日夜京都を囲む五山に点火されます。まず、午後 8 時に点火する東山の如意ヶ岳の「大」(右大文字)、午後 8 時 10 分に松ヶ崎西山の「妙」、その東にある大黒天山の「法」、午後 8 時 15 分に西賀茂船山の「舟形」、京都市西部の大北山の「大」(左大文字)、そして最後に 8 時 20 分に北嵯峨水尾山の「鳥居型」がつぎつぎと点火されます。

この大文字の送り火は先祖や故人の霊が盆の期間各家に戻り、そして 16 日の夜に元に帰っていきます。そしてその際に火をともし迷わず帰って行くようにという意味を持っていると言われていています。その日の夜は京都市内では大文字送り火を見る人でどこも大変な人出です。

私の勤務先である府立医科大学附属病院からは大文字が間近に見えることから、患者さんやお見舞いの方々がそれぞれの想いで病室から見ておられます。

当日は危険ですので病院の屋上への出入りは禁止となっています。又、病院裏にある鴨川河川敷には大変多くの人が大文字の点火の瞬間をみるため集まります。京都市内では午後 8 時の点火に合わせて照明を下げるなど京都市民がこの行事に協力をしています。私は毎年鳥居型を見に行きます。近くの広沢の池には多くの灯籠が流され、近くの寺院からはご詠歌の響きが聞こえてきます。

その年に逝ってしまった人を想い、また先祖を想い点火されている間静かに手を合わせて迷わず無事に帰れるように祈っております。そして送り火を迎えると京都では秋を感じます。

祇園まつりが「動」であれば大文字送り火は「静」ですが昔も今も祈る気持ちは変わりません。

異常気象と言われる昨今ですが季節の移り変わりもそうありがたいものです。今まで変わらないで続いている事が今後も続いて欲しいと願っています。

【湯浅 宗一】

= 次号へ続く =

